

6-1-5 色彩

1. 視覚障がい者誘導用ブロックの色は、黄色を原則とし、周囲の路面と適切な輝度比（2.0程度）を確保するものとする。
2. 色の組合せによっては認識しづらい場合も想定されるため、周囲の路面の色は、十分な検討の上、決定するものとする。

視覚障がい者誘導用ブロックの色は、一般的なアスファルト舗装との対比効果が発揮でき、視覚障がい者（弱視）の適切な誘導を図ることができる黄色を原則としたものである。これは、一般的に「視覚障がい者誘導用ブロックは黄色である」と認知されており、黄色が最も判別しやすいとする意見も多いためである。

したがって、利用者の認知及び晴眼者に対する啓発に配慮し、特別な事由がない限りは、視覚障がい者誘導用ブロックに黄色以外の色を採用してはならない。

色彩に配慮した舗装を施した歩道等で、黄色いブロックを適用するとその対比効果が十分発揮できなくなる場合は、視覚障がい者誘導用ブロック周辺の舗装の色を変更する等により、適切な輝度比を確保すること。

なお、輝度比については、1.5～2.5の組み合わせが弱視者、晴眼者双方にとって問題ない範囲であるという既存研究（「視覚障害者誘導用舗装の現況に関する調査例」岩崎聖司 坂口陸男 秋山哲男 舗装 29-4 1994）^{参考31}等から輝度比2.0程度とした。

参考資料

■ 輝度(cd/m²)

ものの明るさを表現したものであり、単位面積当たり、単位立体角当たりの放射エネルギー（発散する光の量）を比視感度（電磁波の波長毎に異なる感度）で計測したものである。（JIS Z 9111）

■ 輝度比

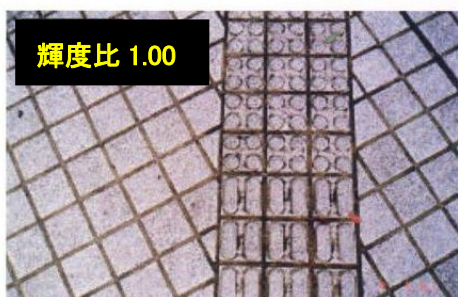
$$\text{輝度比} = \frac{\text{視覚障がい者誘導用ブロックの輝度(cd/m²)}{\text{舗装路面の輝度(cd/m²)}$$

（輝度が大きき方を除算するので、ブロックと舗装の輝度比を逆として算出する場合もある。）

輝度比の色彩の良い事例、悪い事例を以下に紹介する。



良い事例



悪い事例

図6-1-4 視覚障がい者誘導用ブロック色彩事例